

2023年度

| | |
|--------------------|--|
| 科目名称 | 情報（生命・自然） |
| 授業コード | A0167A |
| 英語名称 | Data Sciences II |
| 学期 | 2023年度後期 |
| 単位 | 1.0 |
| 担当教員 | 斉藤 幸喜 |
| 記入不要 ナンバリングコード | |
| 授業の概要 | <p>本授業ではデータサイエンスをテーマとして学修し、実際に社会で活用されているデータなどを適宜用いて実習を行う。</p> <p>まず、データサイエンスの概要を確認し、データ・AI 利活用の最新動向について学習する。これを踏まえて、講義および実習を通して「実社会で活躍する」スキル、すなわち情報活用のプロセスにおいて必要となる力(情報を分析し、整理・蓄積し、伝える力、またそのプロセスを通して、情報を安全かつ適切に運用できる力)を身につける。</p> |
| 科目に関連する実務経験と授業への活用 | 対象外 |
| 到達目標 | <p>本学のディプロマ・ポリシーにある「卒業後の職業、社会生活上身につけておきたい技能」の修得にあたる科目であり、共通科目の目的である「生命と人間性を尊重する倫理的判断力、未来を見据え正しく技術を用いる能力を備えている」人材育成のため、「情報通信技術の未来を見据え正しくデータを解釈し活用する能力を身につける」科目である。</p> <p>また、カリキュラム・ポリシーの通り、個々のパソコンを用いて実習を行い、数値分析、インターネットでのコミュニケーション、文章表現、プレゼンテーションなどの実社会で役立つ情報活用の実践力を身につけることを目標とする。</p> |
| 計画・内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報検索とインターネット <データAIの具体例、データの社会における利活用1> 2) 情報運用 3) 数値分析(1) <データを読む3> 4) 数値分析(2) 5) 数値分析(3) 6) データベースの活用 <データを扱う6> 7) ファイルやデータの管理 <データを守る上での留意事項 2> 8) インターネット・コミュニケーション(1) <データ・AI 利活用における留意事項 2> 9) インターネット・コミュニケーション(2) <データ・AI 利活用における留意事項 3> 10) 文章表現(1) <データ・AI 利活用における留意事項 4> 11) 文章表現(2) 12) ビジュアル表現 <データを説明する 1> 13) プレゼンテーション(1) e-Statを利用した社会の調査と分析<データを説明する 2> 14) プレゼンテーション(2) 統計データを用いた視覚表現・グラフ<データを説明する 3> |

2023年度

| | |
|------------------------------------|---|
| 計画・内容 | 15) プレゼンテーション(3) データサイエンス基礎についての総括<データを説明する4> |
| 授業の進め方 | データサイエンスについての基礎知識について講じるのと同時に、データの取り扱いをテーマにPCを用いて実習を行う。テキストの解説を行い、課題についてレポートを作成し提出する。 |
| 能動的な学びの実施 | 実際に電子データを利用し、加工や作成を行う。 |
| 授業時間外の学修 | 予習・復習の授業外学修時間は60時間程度 予習：教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく（各回10分程度） 復習：再度パソコンを操作して重要ポイントを確認する（各回50分程度） |
| 教科書・参考書 | 教科書：本田直也監修、noa出版 著『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』（noa出版 2,500円）(2017) 参考書：北川源四郎・竹村彰道 編集『教養としてのデータサイエンス』（講談社 1,980円）(2021) 適宜配布される授業資料 |
| 成績評価方法と基準 | 各回の課題を採点し、総合して評価とする(100%)。 授業受講態度を加味して評価を加減する場合がある。 |
| 課題等に対するフィードバック | 提出されたレポートの内容について適宜解説を行う。 |
| オフィスアワー | CampusSquareを参照。事前に連絡のこと。 |
| 留意事項 | 15回のうち、原則3回以上の課題提出がない場合、不合格となる。 ただし、特に通信環境や課題を行う環境に問題がある場合には、これを考慮に入れる。 |
| 非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」 | インターネットで配布された授業資料を読み、指定のURLの動画を視聴し、データや書類を利用するなどして課題を行う。 非対面授業時の対応については受講環境などを考慮し、単位取得条件は最低10回の課題提出とするが、成績評価についてはカリキュラム全体（全15回）から行う。 |